

1. 評価報告概要表

作成日平成21年 7月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	1090700038
法人名	久建産業株式会社
事業所名	グループホーム・アリス
所在地	館林市羽附町699 (電話) 0276-72-8685

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年6月16日

【情報提供票より】(平成21年5月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 5人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	47,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 25,200/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 円

(4)利用者の概要(5月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5歳	最低	68歳	最高	89歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	新橋病院、みやげ歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地に建つ事業所であり、南側には家庭菜園や花壇、洗濯物干し場が作られている。天気の良い日は、入居者の希望で花壇の草取りや花や野菜の手入れを行っている。庭に椅子やテーブルを持ち出して外でお茶飲みをする等入居者一人ひとりが望むケアの提供を行い、その人らしく過ごせる生活支援を目標に、管理者と職員ともに専門性を高める努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果は、職員会議や運営推進会議で報告している。また、前回評価の改善課題である自己評価の取り組みについては、管理者から全職員へ自己評価の目的等の説明を行い、理解した上で、普段のケアの振り返りに活かされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員会議や申し送りの場で管理者が全職員へ説明している。また、管理者は、機会あるごとに職員から実際のケアやケアに対する意見等を伺い、それらをまとめて自己評価票を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回メンバーの出席しやすい月末を選び開催している。事業所から行事に関することや日常生活の出来事等を報告している。また、地域との関係を築くための意見交換をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族来所時に、管理者から入居者の日常の様子や受診結果等を対面で伝え、2ヶ月に1回お便り「メール便」の発送をしている。「メール便」の工夫や献立表を利用した報告ができることを期待したい。家族からの意見や苦情等は、真摯に受け止め改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人々を、事業所の納涼祭へ招待している。また、手品や民謡等のボランティアの人々が事業所を訪問する等、外部の方々が事業所を訪れている。今後は、訪問者を待つだけでなく、入居者とともに職員が地域へ出向き、地域の人々と積極的に交流し連携がとれることを期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念「私たちは思いやりと心のこもったケアと愛情を持ち共にふれあい幸せに歩いて行きます」を掲げている。	○	事業所の特徴を活かした独自性と地域性を意識したサービス方針の再構築を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時に、全職員でつくりあげた理念であり、サービスの実践に活かされている。また、理念は玄関入口に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周辺で畑仕事をしている方に入居者が声をかけるなど交流しているが、入居者と共に職員が地域活動に参加していない。運営推進会議のメンバーに、地域代表として自治会長、民生委員が参加している。	○	運営推進会議メンバーに協力を呼びかけるなど、ともに暮らす地域の一員として、地域活動や人々と積極的に関わりをもつことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、職員会議や運営推進会議で報告している。評価で見出された課題は、改善目標を立て実践に努めている。管理者は、全職員へ評価の意義についての説明しており、自己評価に取り組み、記録のまとめは数名の職員と管理者で行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、メンバーの比較的出席しやすい月末に開催して行われている。事業所から、行事の報告や入居者の暮らしぶり等の報告をしている。また、地域との関係を築くための意見交換や職員の顔写真と名前の掲示について議論し、サービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	入居者の日頃の様子やケアの実際を、市担当者に伝えている。また、制度上のことについて市担当者に何う等気軽に話し合える関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族来所時に、管理者から入居者の日頃の暮らしぶりや心身状態の変化、受診結果を直接口頭で伝えている。直接伝える方法と並行して、2ヶ月に1回お便り「メール便」で家族へ報告している。金銭管理は、毎月の利用料金の請求書に納入帳のコピーを同封し発送している。	○	来られない家族の事情を考慮し、報告の方法や頻度等を工夫されることを期待したい。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	来所時に、家族が気軽に意見等を管理者や職員に話せる雰囲気づくりに努めている。家族からの「職員の顔写真と名前を掲示して欲しい」という意見に、運営推進会議や職員会議で議論している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	退職する場合は、1ヶ月前に届けを提出し、退職者から新職者への申し送りができるようにしている。また、時間をかけることで入居者へのダメージを最小限にする配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	運営規定の第10条に、受講すべき研修や頻度等が明記され、実施している。研修内容は、報告書の提出とともに全職員へ会議で伝達している。また、事業所独自の勉強会「認知症について」を、管理者主導で積極的に進めている。資格取得のための学習に、勤務調整を行うなど協力的である。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	館林市や明和町の周辺地域事業所の職員と主に事例検討の勉強会やお茶飲み会を企画し、交流を深めるとともに情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護支援専門員を介して事業所職員が家族と本人に会い、納得の上入居を決めている。また、家族や本人の要望があれば見学することもでき、随時行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小学校の先生をしていた入居者が、他の入居者や職員に小学唱歌を教え全員で歌を歌ったり、裁縫を得意とする入居者が、ボタン付けやほころびを繕ってくれたりしている。毎朝、入居者と職員と一緒に居室や共用場所を掃除しながら支えあう関係で過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴を把握した上で、日常生活の会話や行動から本人の意向を理解し、本人本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員をリーダーに、家族や本人からの情報や要望を基に、全職員で利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の申し送り時間を利用し、利用者の現状と計画の整合、実施の評価を行っている。また、状態の変化で課題が生じた場合は、随時計画の見直しと新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者と家族と一緒に宿泊できる居室の広さを有し、寝具の準備をしている。また、入居者の要望に応じ美容師経験の職員がヘアカットをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の希望で、今までのかかりつけ医、ホーム協力医に受診している。職員による通院介助を行い、普段の状態(症状)を医師に伝え、指示を受けている。また、受診結果は管理者から家族へ電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、医療処置を必要とする状態になった場合は、医療機関へ転移するという事業所の方針を、家族、本人に伝えている。また、全職員が事業所の方針を認識し、共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の「ちゃん」付け等の呼称や友達口調等の会話は、その都度管理者が注意している。また、一人ひとりの入居者の力量に応じた言葉かけで支援している。個人情報に関する記録類は、事務室の戸棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおよそ決められているが、居室や共用空間の掃除は、入居者のペースを尊重しながら職員と共に行っている。また、事業所の買物に同行することを日課にしている入居者には、声かけをして一緒に外出をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、入居者と職員が同じ食事を一緒に食べている。テーブルを拭いたり、職員と一緒に配膳したり、自助具をつけて自力摂取をしたり、入居者一人ひとりの好みや力量に応じた支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午後(13:30~15:30)の時間帯に決められているが、毎日入浴できる。本人の好みで2人入浴や一番風呂に入る等、本人本位の支援が行われている。また、季節に応じてゆずやみかん等を入れ、香りを楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	教えることを得意としている入居者から歌の指導をして頂いたり、畑仕事の好きな入居者から花壇や菜園の手入れをしてもらったりしている。洗濯物を干すことやたたむこと等入居者の生活歴を把握し、その日の状態に応じ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は本人の希望に応じ敷地内にある家庭菜園の草取りや日常的に敷地内・外の散歩を行っている。また、1ヶ月に1回は菖蒲園などへ全員で外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所周辺は、工場と畑、ビニールハウスの目立つ所であり人家も少ないことから、防犯上やむなく施錠している。職員が目配りできる朝の時間帯(約1時間)を選び、玄関の施錠をはずしている。しかし、日中のほとんどの時間は、施錠している。	○	入居者が自由に出入りできる環境の工夫とともに鍵をかけない支援を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力で避難訓練を実施している。各居室入口の「のれん」は、防災上好ましくないという指摘を受け、取り外している。また、夜間火災を想定し、通報の仕方、消火器の使い方、避難誘導の方法等を、入居者とともに訓練している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量は、1ℓ～1.5ℓを目安にしている。入居者一人ひとりのコップにしるしをつけ、摂取したら記入し、1日の回数・量を集計している。献立は、専門業者による1000kcal前後のバランスのとれた献立表が作成されている。糖尿病の入居者には、医師と相談上、量で調整を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、調理しながらリビング兼食堂にいる入居者と会話をしたり、入居者の様子を確認することができる。また、リビング等の窓からは、竹林や花壇の花、家庭菜園の野菜を季節ごとに見ることができる。廊下にはソファを置き、一休みできる居場所の確保が工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、フローリングと三畳程の畳敷があり、本人の好みのベットや布団の寝具を選ぶことができる。また、冬になるとコタツを持ち込んだり、仏壇に位牌を置き手を合わせる等、入居者、家族と相談しながら居心地よく過ごせる工夫がされている。		